

ビターピット防止剤の使用法（追補）
夏期散布による防止法

（園試 果樹部、環境部）

1. 背景とねらい

昭和61年度にビターピット防止剤の使用法として、生育期前半の使用について参考に供した。この場合、前年のビターピットの発生が少ないなどの理由で散布をせず、その後降雨が多いなどで窒素の遅効きや、着果量の不足などから果実肥大が進みビターピットの多発が予想される場合など、生育期後半での対応ができない場合がみられた。このため生育期後半のビターピット防止法を検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2. 技術内容

1) 夏期散布の防止剤としてスイカルの散布により防止することができる。

2) ビターピット防止剤の種類と使用法

表-1 追加された生育後期の使用法

資材名	成分含量	使用時期	使用回数	使用濃度
スイカル	ギ酸カルシウム30%	8月上中下旬	3回	300倍

表-2 現行の使用法

資材名	成分含量	使用時期	使用回数	使用濃度
ストピット20	塩化カルシウム20%	落花20日後	3~5回	100倍
	炭酸カルシウム75%	~7月下旬		
カルロン	塩化カルシウム72%以上	”	”	360倍

3. 指導上の留意事項

- 1) 農薬散布時に混用しても良いが、混用の場合は別々にとかしたものを混合すること。
- 2) 単用する場合、展着剤を加用する。
- 3) 葉面散布剤として使用されている、磷酸及びアンモニア系の物とは混入しない。
- 4) 適応地域 県下全域

4. 試験成績の概要

表1 果実のカルシウム含量及びビターピット発生率 (北斗/M26)

試験区	散布濃度	果肉のカルシウム含量(mg/F.W. 100g)		発生率 (%)
		7/25	10/28	
ストビット20	100倍	4.79	1.49	3.3
スイカ	300倍	3.88	1.41	6.0
無処理	—	4.44	1.18	12.1

注1) 散布日及び散布回数

ストビット20 6/23, 7/ 5, 7/18 3回

スイカ 8/ 5, 8/18, 9/ 1 3回

注2) 昭和63年度試験成績

表2 ビターピット発生 (王林/M26)

試験区	散布濃度	散布回数	散布時期	発生率 (%)
ストビット20	100倍	3回	6/23, 7/ 5, 7/18	1.5
スイカ	300倍	3回	8/ 8, 8/18, 9/ 1	4.0
無処理	—	—		15.0

注) 昭和63年度試験成績

表3 ビターピット発生率 (ジョナゴールド/M26)

試験区	散布濃度	散布回数	散布時期	発生率 (%)
ストビット20	100倍	3回	6/25, 7/ 5, 7/17	11.0
スイカ	300倍	3回	8/ 6, 8/20, 8/29	4.3
無処理	—	—		12.4

注) 平成2年度試験成績

表4 ストビット20とスイカルの経済性

資材名	使用倍率	散布回数	価格 (和単価)	10a当たりの価格
ストビット20	100倍	3回	197円	2,364円
スイカル	300倍	3回	1600円	6,240円

注) 散布量は10a当たり400Lとして算出した。